

自己評価チェックリストにおける
保育園としての自己評価

清水みらい保育園

平成 29 年度総括

平成 29 年度 園全体の総括（平成 29 年度の自己評価結果をふまえて）

保育の活動というのは、保育園の理念、方針に基づき、子どもたちの個々の発達と成長を考え栗園していくものです。担当保育者一人独自の判断のもとでの保育は、クラス内の職員のチームワークは、測れません。チームワークの悪い職員間の人的環境の中では、子どもたちの健全な成長・発達の保障は望めません。保育は、個人プレーではなく、チームワークが大切です。そして、私達が、第一に考えることは、子どもを主体に考えること、この一点において、職員間での統一した考え方としなければなりません。

その思いのもとで、清水みらい保育園の保育理念、保育目標、保育の基本姿勢を考えます。この自己評価チェックリストを通して、自分が保育士としてどのような保育をしたいか、という前に、保育園という集団の場で子どもたちをどのように保育するのか、目の前の子どもたちの現状を正しく見極め、今、何が必要なのか、子どもたちにどんな力をつけていくのか、どのように成長させていけばいいのか？などを、自分自身に厳しく問う機会にしてほしいと思います。保育士としてのあるべき姿を、初心に帰って、自分を見つめ直してほしいと思います。

平成 27 年に新制度が施行されて以降、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わってきました。待機児童解消という社会的な流れのなかで、こども園や小規模保育園が多く開園しています。このような社会現象の中で、保育園として質実ともに生き延びるためには、保育の質が大きく左右します。子どもたちと関わる保育士の質は重大な要素です。私たちは、現状に甘えることなく、自己を厳しく見つめ、社会人・保育士として、切磋琢磨して、研鑽を積まなければなりません。今保育園に求められるのは、保育の質の向上や、子どもの成長への手助けはもちろんのこと、保護者や地域との連携など、子育て全般の「支援」です。

幼児教育と、幼児福祉の両方から、保育園としての社会的役割を認識することが、これからの課題なのかもしれません。

①保護者、地域との連携をどのように強めていくか？

②忙しい就労条件の中で、自己を研鑽すべく時間をどのように確保していけばよいか？

保育園外での研修会参加の保障

保育園内での研修会、研修時間の確保

研修後の保育実践の確率

保育士ひとりひとりが高い専門性と豊かな資質を持つことは必至なことですが、個人の力量の向上にとどまらず、保育士集団としてのまとまりと、それに伴う保育力の高まりが必要となってきます。いろいろな形での話し合いの場を作ること、そして、忌憚なく話し合える職員間の雰囲気作りをして、職員のチームワークを強固にして、保育園の子どもたちと共に成長していく保育士集団であってほしいと願います。

平成29年度 自己評価結果

大項目	中項目	評価項目	
		現状(よかった点・悪かった点)	改善点及びその取組
子どもの発達援助	保育の方法・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちに余裕のあるときは、一人ひとりに対して、穏やかな接し方をしていると思うが、日常的に「だめ」「いけません」「早くしなさい」という言葉が無意識のうちにしているように思うと評価をしている職員が多い。 ・子どもたちの意欲を育てたいと思いながら、日々模索しているという現状を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちに余裕を持って関わることが大事と考える。そのためには、子どもと向き合える時間を作るための工夫が必要となる。仕事の優先順位を考え行動することが大事。また、子どもたちが楽しいと思えるカリキュラムを考え、実践することで、子どもたちの挑戦する気持ちを育てることが、意欲にもつながる。
	発達援助の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・年間カリキュラム、月間カリキュラムの作成はするもの、保育園の理念、保育目標を土台とし、それを理解して作成することがまだ不足しているように感じる。 ・また、カリキュラムがあっても、一人ひとりの発達・成長を見極めて実践できていない場面が多々ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度の始めには、気持ちを新たに保育理念や保育目標を見直すこと、またその理念・目標の上に指導案を作成することを、職員間でしっかり認識し合う会議を開く必要がある。 職員一人ひとりに意識向上が必要と思われる。
	健康管理・食事	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理では、毎月の身体重測定をして、過程にも知らせているが、その計測結果が日常の保育に反映されていない現状がある。食事に関しては、食事のマナーが徹底していないため、注意することが多く、楽しく食べる雰囲気づくりが不十分だと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体測定の意味をしっかりと子どもたちにも伝え、子どもたち自身が自分の成長に興味関心を持てるような取り組みが必要。また、正しい食事のマナーは、一度職員全体で会議し、統一された方針が進めないと、本当の意味で、子どもたちに身につかない結果となり、しいては社会に出た大人時代にまで影響が出ることを認識したい。
	保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・人的環境においては、職員間の人間関係があり、決して良い環境ではないと感じる。物的環境においては、衛生面で、乳児クラスは布団、おもちゃ、椅子、机など注意をして、機会あるごとに消毒をしているが、幼児クラスは、あまり衛生面での配慮がないように思う。 ・乳児クラスでは、室温・湿度などを測定し、記録しているが、幼児クラスは、あまり意識していないのが現状。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人的環境における人間関係は、保育士にとって快適な環境と考えるのではなく、常に子ども主体にしてより良い人的環境と考える高い意識が大事。そのためには、定期的に会議を開催し、互いにコミュニケーションを深めること。悪口で相手を攻撃する関係ではなく互いが前向きで生産的な関係を作ることが必要。 ・幼児クラスも、気温・室温・湿度などの、衛生環境に気を付けるためにも、記録表を作成することが必要かもしれない。

大項目	中項目	評価項目	
		現状(よかった点・悪かった点)	改善点及びその取組
子どもの発達援助	保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・良い点では、各年齢の保育室には、子どもが制作活動をした作品を使って、保育室内をディスプレイしたりして、工夫をしている。乳児のクラスにおいては、子どもの成長・発達にあった、おもちゃがもう少しあってもいいように思う。 ・手作りの良さも、子どもたちに知らせたいと思うが、なかなか手作りでできないのが現状。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生たちが、自分のクラスの装飾をいろいろ工夫していることは、とても良いことだと思うので、これからも、その気持ちを忘れないでほしい。 ・既成品のおもちゃもいいが、職員による手作りおもちゃも、乳児組においては必要と思う。仕事のやりくりをして、手作りおもちゃを作る時間を作るようにしたらどうか…と考える。
	子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・在園児の子育て支援としては、連絡ノートで一日の園生活の様子を知らせる。お迎え時に、保護者とのコミュニケーションを図る。クラスだより、園だよりなどで、クラス運営、園運営の詳細を周知する、など実践している。ただ、連絡ノートの書き方の問題、保護者とのコミュニケーションの取り方は統一感がないため、保育士の格差を露呈している現状があると感じる。(時々、保護者からの意見・要望を頂くことがあるため) 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートに何を書くのか、どのように書くのかというところが、それぞれ個人差があるため、全体が同じ目線で、同じ思いで記入するように、していく必要がある。年度始めには連絡ノートの書き方について研修をしているが、定期的に勉強会などを開く必要があると感じる。また、保護者との会話も、何をどのように話すかが、重要な鍵となる。保護者との信頼関係を強くするためにも、丁寧な関わりをするという意識を高く持ちたいと考える。
	地域の住民や関係機関などとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との連携は、あまり取れていないのが現状。ただ、保育園の役割を知らせるという広報的な位置づけとして、新年の集い、餅つき会に地域の方を招待するということは、連携に結びつける一つの方法である。 ・市の相談課、児童相談所、保健センター等との連携は取れていると感じる。しかし、職員全員が、同じ意識を持って、関係機関とのことを周知しているかというところが、不確かな現状がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災のことを考えると、地域との連携は、もっと考える必要がある。地震の避難訓練では、小学校と連絡を取り合っている、地域の防災訓練にも保育園として、参加するなどの方法も必要と考える。 関係機関との連携は園長、該当児童のクラス担任だけでなく、全職員にも周知してもらうように、会議で報告し合うことが必要。但し個人情報にも関わってくるため、個人情報を外部に漏らさないなど、社会人としての基本的な意識を持つようにする。
	運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が保育士としての職務を、児童福祉法などの関連法規をもとに、理論をもって理解しているかというところは、少し不安を感じる。会議の中でも、子どもを主体として、子どもの成長を最優先に考えた発言が少ないように感じる。子どもを第一に考えて、自分の考えを臆せず発言できる場であってほしいと職員が願っている現状であると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を深める、理論的な研修は、誰もが敬遠しがちであるため、だからこそ、あえて園内で研修し合うことが必要と考える。職員の意識向上を図る様々な取り組みは、園の運営管理にとって、最重要課題である。